

千葉市議会議員（中央区選出）

# 現場主義



# 三井みわこ 議会報告

## 第3回定例会 一般質問で登壇！



これまで、福祉の視点、女性の視点で、高齢者対策、障がい者支援、子どもから大人まで、誰もが「安心・安全に暮らせるまちづくり」を目指して取り組んでまいりました。これからも福祉の専門的知識を活かして全力で取り組んでいきます。

令和5年第3回定例会が、9月6日～10月3日に開催されました。今議会では、一般質問で登壇しましたのでご報告します。

第3回定例会

## 令和5年第3回定例会 一般質問

### がん対策について

日本では2人に1人ががんになると言われているが、中でも30代から50代の女性に多い乳がんは、早期に発見し、治療をすれば生存率が最も高いがんとも言われており、課題は、乳がん検診の低い受診率にある。

**質問** 早期発見には30代後半から超音波検診や、視触診による自己検診が必要だが、当局はどのように考えているか？

**答弁** 県内では30歳代後半から乳がんの罹患率が上昇していること、超音波検査はマンモグラフィでは判別が難しい、若い女性の乳がん発見に有効であることなどから、平成19年度から、30歳代に対する超音波検査を実施している。視触診による自己検診は、乳房を意識する生活習慣「ブレスト・アウェアネス」の重要性について、パンフレットやホームページなどで、啓発に努めている。

**要望** 乳がんを早期発見に向け、検診を1年に1回にするよう求めます。



### 中央区の諸問題について

令和4年4月に、千葉市客引き等の防止に関する条例が罰則も含めて施行され、客引き指導員が巡回するようになってから1年半が経過している。

**質問** 客引き行為者に対する指導、飲食店に対する対策として、「客引きをしない・させない・利用しない宣言店」があるが、その現状については？

**答弁** 「客引きをしない・させない・利用しない宣言店」は、各客引き行為禁止区域内の居酒屋やカラオケ店など様々な店舗から宣言書を提出いただいている。宣言店舗数は、令和5年8月末時点で108店舗となっており、さらに登録店を増やすための周知啓発を行っていく。



**要望** 条例には、「禁止区域に所在する土地又は建物の賃貸借等の契約の締結に際し、その相手方が違反行為をしない旨を約させるよう努めるものとする。」という内容があるので、こうした働きかけの強化も求めます。

**質問** 富士見2丁目周辺道路の夜間帯違法駐車が消えないのは何故か？

**答弁** 直近では、本年8月に2回実施した、千葉県警察、地元商店街、千葉市による富士見地区の合同パトロールでも、違法駐車に対する指導や駐車違反の取り締まりが多数行われた。客引き対策と違法駐車、飲酒運転などの交通取り締まりは関連している部分があり、今後も千葉県警察と連携した対応について検討していく。



**要望** 市としても県警と連携し、市民の声、要望をしっかりと聞き、富士見2丁目境界の違法駐車解消に努めることを求める。また、市民から、道路の境界線にポールを立てるなど要望もあるので、検討を求めます。

### 廃棄物処理施設について

**質問** 市内で唯一稼働中の新内陸最終処分場の延命化策及び延命化に要する費用については？

**答弁** 新内陸最終処分場の延命化策は、新浜リサイクルセンターで処理した不燃及び粗大ゴミの破碎残渣や、北清掃工場から排出される焼却灰の一部を民間委託により燃料ガスやスラグなどに再資源化している。また、それらに要する費用は、令和4年度実績として、新浜リサイクルセンターからの破碎残渣処理費が約3億9,200万円、北清掃工場からの焼却灰運搬処理費が約7,700万円となっている。

**質問** 候補地選定の具体的な進め方については？

**答弁** 廃棄物分野を専門とするコンサルタントの知見を活用し、学識経験者の意見をいただき段階的な候補地の絞り込みを進めている。

具体的には、一次選定では法令上の規制により50か所程度まで抽出、二次選定で地理的条件の評価・判定により10か所程度まで、三次選定で現地調査等により3か所程度まで絞り込みを行う。

**質問** 次期最終処分場に関し、コスト縮減の観点から栃木県のようなPFIの導入、さらには民間処理委託を検討すべきと考えるが、見解は？

**答弁** 本市では、民間事業者の資金、経営能力及び技術的能力の活用も視野に入れ、PFI等の導入可能性も検討する。最終処分の手法については、民間処理委託も含め、長期的かつ安定的な継続使用、経済性や災害発生時における緊急対応などの視点により評価を行い、本市において最終処分場を新設することとした。

**要望** 新内陸最終処分場については、引き続き、ごみの減量と再資源化を推進し、より長く使用できるように取組んでいただくよう求める。また、次期最終処分場の整備については、整備手順や、整備スケジュール等を十分に検討し、可能な限りコスト縮減に努めていただくよう求める。



### 質問

がん患者に対して、ウイッグ購入費を助成しているが、本市の助成実績はどのようになっているか？

### 答弁

購入費助成は、令和3年9月から開始しており、実績は、令和3年度は155件・399万円、昨年度は340件・869万3千円です。

### 質問

がん患者のアピランスケアに対して、本市はどのような考えか？

### 答弁

本市では、令和3年度から、がん患者医療用ウイッグ購入費の助成を開始しましたが、今年度、県が支援制度を創設したことを受け、新たに乳房補整具なども対象とするともに、補助上限額等も見直すなど、アピランスケアへの支援を拡充することとした。



### 質問

本市は、男性に比べ女性の受診率が低い傾向にある。継続的な再勧奨や受診しやすい環境を、今後どのように整備していくのか？

### 答弁

乳がんと子宮頸がんの集団検診における子どもの見守りやセット検診、乳がんでは20歳、子宮がんでは40歳を迎えた方への無料クーポン券の送付など、受診率の向上の取り組みを進めてきた。今年度は、効果的な勧奨を行うため、庁内に発足したナッジ理論の活用を支援する行動デザインチームの協力を得て、子育て世代の女性の注意をひき関心を持ってもらえるようなポスターやポケットティッシュなどを作成し、各区保健福祉センターへの掲示や乳幼児健診などの際に配布する。今後も、効果的な勧奨や、受診しやすい環境整備に努めていく。



東京都八王子市は検診の割引チケットを配布しているが、チケットの色をゴールドにして高級感を出すなどしたところ、結果として検診率が前年度と比べて1200人以上増加したという事例もあり、このように勧奨方法を工夫することも求めます。

### 要意見

本市では、がん教育として小学校6年生、中学2年生、高校1年生で学習している。今後は大学等と如何に連携していくかも、重要な課題です。がん検診の対象年齢の方々はもちろんですが、市内の高校、大学等へ子宮がん検診の普及啓発ポスターを掲示するなど、若いうちからがん検診について正しい知識を得ることも、将来の検診率向上に結びついていくと思う。



また、昨今は健康経営に取り組む企業もあり、このような企業とも連携した検診に関する情報提供やさまざまな手段を用いてがん検診の重要性を周知されるよう求めます。是非、関係部局と十分に連携し、効果的な普及・啓発を実施していくよう求めます。

## 子育て支援について

本市では、子どもの貧困対策に関する基本理念や目標を定めた「千葉市こども未来応援プラン」を平成29年に策定、令和5年度からは、第1期のプランを継承しつつ、第2期のプランによる取り組みが推進されている。

### 質問

第1期と第2期子ども未来応援プランの違い、特に力を入れたことは何か？

### 答弁

第1期プランは、平成29年度から6年間実施してきたが、支援が必要な家庭に十分な支援が行き届いていないことが課題として確認できたため、第2期プランでは、「支援が届かない、届きにくい子ども・家庭とつながる施策を推進」することに特に力を入れて取り組むこととし、把握する数値目標として、スクールソーシャルワーカーの対応件数を新たに設定している。



### 質問

子どもナビゲーターの増員などの拡充についての考えは？また、支援が必要な子どもを把握できない、支援の状況については？

### 答弁

子どもナビゲーターについては、令和5年度に全区配置され、支援体制や支援方法等については、事業の効果を検証しながら、より良い方法について検討していく。



また、子どもナビゲーターへの情報提供は、学校やスクールソーシャルワーカー、区保健福祉センターなど、様々な機関から寄せられている。支援対象の家庭には、訪問や面談などで家庭全体の抱える課題を評価し、支援計画を策定した上で、関係機関と連携して支援を行っている。

### 質問

「学習・生活支援事業」を行っているが、貧困の連鎖を断ち切る有効な施策となっているのか、確認していく必要があると考える。そこで、低所得世帯への学習・生活支援事業の取組の現状については？

### 答弁

生活困窮世帯と生活保護受給世帯の中2・中3を対象に、高等学校等への進学に必要な学習支援を実施している。今年度は330人の定員で、平日12か所、土曜日2か所で実施、生徒3人に講師1人の少人数制で、生徒の学力に応じた指導を心掛けている。また、家庭の状況や就寝時間などの生活習慣の聞き取り、出席率の悪い子への家庭訪問など、生活支援も併せて実施している。今年度より、生活保護受給世帯の中1を対象に、学習意欲の向上などを目的に、親も含めた面談等を実施している。



### 質問

ひとり親世帯ではランドセルや制服を揃えるには経済的に大きな負担になっている。制服などのリユースについて、その取組み状況について伺う。

### 答弁

市立小中学校における物品のリユースについては、その取組みを推進するよう各学校に通知しております。特に制服に関しては、多くの中学校において、学校やPTA、保護者会が卒業生などに提供を呼びかけ、バザー等の機会を活用して安価に販売するなどの取組みを行っています。

### 質問

子ども食堂の開設状況等を、どのように子どもたちに伝えているのか？



### 答弁

子ども食堂は、主にNPO法人や飲食店などが運営しており、開催頻度や料金などは各団体により様々となっている。実施状況は、市ホームページで公開しているほか、千葉市子ども食堂ネットワークがマップを作成して各学校に提供したり、運営者がSNS等で開催状況を発信したりしている。

### 要意見

毎日の生活に追われ、支援そのものを知らない家庭も多いと聞いている。必要なおところに十分な支援が届くよう、当事者からの申請がなくても適切な支援につなげていく、ワンストップでひとり親家庭を支援する一歩踏み込んだ支援体制の構築が必要である。地域の人たちとつながりが持てる居場所は、子供たちの学力や生活習慣の改善だけでなく、親の孤立を防ぐ役割が大きく期待されます。本市においても、支援が必要な子どもたちに様々な情報が行き渡るよう、効果的な情報提供に努めていきたい。

### 三井みわこ プロフィール

- 1971年：生まれ 千葉市中央区登戸在住
- 2002年：NPO法人ハートケアゆーあい（障がい者の施設）設立
- 2003年：聖徳大学大学院 児童学研究科 修士課程終了
- 2006年：NPO法人政策塾「一新塾」（熊谷知事と同期）卒業  
千葉県教育戦略ビジョン策定作業部委員
- 2007年：社会福祉法人「白雪会」の理事に就任、軽費老人ホーム「ほんだくらぶ」の運営に携わる
- 2008年：ちばCO2CO2ダイエット推進 / 県議会議員
- 2010年：千葉市「新市民計画策定のための市民ワークショップ」委員
- 2011年：千葉市議会議員選挙初当選
- 2013年：都市建設委員会副委員長
- 2015年：千葉市議会議員選挙2期目当選
- 2018年：千葉市議会総務委員会 副委員長
- 2023年：千葉市議会議員選挙3期目当選  
千葉市議会総務委員会 副委員長

ご意見・ご要望がありましたら、右記の連絡先までよろしく申し上げます。

E-mail : mm@mitsui-miwako.com  
X(旧 Twitter)ID : 三井美和香  
発行 : 三井 美和香  
TEL & FAX : 043-216-5432  
〒260-0033 千葉市中央区春日  
1丁目6-11-106



三井みわこ

で検索!

<http://www.mitsui-miwako.com>

